

いわみざわ

農業委員会だより

No.17

令和4年1月発行



令和3年第8回総会

※緊急事態宣言発出により出席委員を制限した様子
会場 岩見沢市教育研究所 小運動場



新年あけまして
おめでとうございます

主な 内容

- 年頭のあいさつ
- 農業者年金情報
- 新規参入者の声
- 北海道農業経営相談所
- 流動化情報など
- 全国農業新聞で紹介されました
- 編集後記

年頭にあたって



岩見沢市農業委員会

会長 山 谷 康 雄

明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、謹んでごあいさつを申し上げますとともに、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より当委員会の活動に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、例年に無い大雪に見舞われ、二〇一二年に次ぐ観測史上二番目の積雪となりました。

ハウスや建物を始め、とりわけ果樹においては甚大な被害となったところがございます。

春作業については、大雪による遅れも心配されたところですが、天候に恵まれたこともあり、順調に作業は進みました。しかしながら、六月中旬から九月中旬にかけての記録的な高温・早魃により、玉ねぎや馬鈴薯等では、変形や小玉が増加するなど、露地野菜では大幅な減収となりました。

一方、小麦においては、二年連続の豊作となり、米については、空知の作況は一〇七で、質・量ともに良い結果でした。ただ残念なことに、コロナ禍や消費の減少等に加え、政府需給の見通しの甘さもあって、過剰在庫の状態となり、概算

金は約二割下がり豊作を喜べる状況になりませんでした。

次年度以降、米対策の検証、制度見直しを強く望むところです。

新型コロナウイルス感染症につきまして、道内では、感染拡大により、昨年五月と八月に緊急事態宣言が発出され、飲食店等への営業制限や、観光需要の減少、イベント中止が継続され、農畜産物の消費減少、更には景気低迷をまねきました。

農業委員会としても、感染対策として、岩見沢市教育研究所の小運動場を会場とし、出席制限をかけるなど、三密を避けながらの開催を行っております。

ワクチン接種が進むにつれ、感染拡大も治まりつつありますが、一日も早い治療の開発を期待するところであり、最後となりますが、農業に携わる皆様が将来に希望を持って農業に取り組むために、農業委員会としての一助となるよう地域に根ざした委員活動に邁進してまいります。

さらに、本年におきましては災害のない、実り多き一年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

（注）



年 新 賀 謹

岩見沢市農業委員会

会長 山谷 康雄
会長職務代理 佐々木利夫

第一地区常任委員会

委員長 黒田 芳明
副委員長 吉成 朗
委員 倉田 真二
委員 柿崎壽恵子
委員 佐々木利夫

第二地区常任委員会

委員長 馬場 広之
副委員長 久保 智則
委員 長井 孝之
委員 井川 和也
委員 森 一男

第三地区常任委員会

委員長 小林 強
副委員長 西村 昭寿
委員 引頭 一宏
委員 高田 勝彦
委員 山田 辰弘

第四地区常任委員会

委員長 西谷内智治
副委員長 尾田 憲朗
委員 米内山裕子
委員 戸田憲一郎
委員 伊藤 俊春
委員 渡辺 亮二

第五地区常任委員会

委員長 志賀野 敏
副委員長 川北 敏充
委員 岩瀬 孝雄
委員 池田 明博
委員 小倉 和敏

第六地区常任委員会

委員長 干場 克二
副委員長 坂野 博之
委員 日笠 和良
委員 近田 昌枝
委員 山谷 康雄

第七地区常任委員会

委員長 宇井 正明
副委員長 長森 睦
委員 杉村 幸浩
委員 宮崎 裕治
委員 坂口 信幸

農業委員会事務局

事務局長 土井 盛慈

農地係

係長 小野 洋志
主任 佐藤 一明

振興係

係長 内山 充人
主任 船戸 崇之
主任 小林 航
主任 石澤 磨
主任 石田 浩基

(農業振興センター担当)

主査 山田 勝彦

(土地改良推進事務所担当)

主査 池田 大輔



農業者年金



シッカリ積み立て、がっちりサポート 農業者年金で老後の生活に安心を

農業者年金は、積立方式で、自分が支払った保険料に運用益を足したものが支給されます。加入者数に影響されないため長期的に安定した年金を受給することができます。

令和2年度 「新規加入部門」 19名 「女性新規加入部門」 6名 「39歳以下加入部門」 7名
農業者年金新規加入者部門（市町村別）
全国第5位

昨年度は新規加入者部門で全国第5位となりました。

これも日頃の活動のたまものと、お世話になっております関係各位に感謝を申し上げますとともに、今後とも農業委員一同、推進活動に尽力いたしますので、変わらぬご指導をいただきますようお願い申し上げます。

農業者年金で安心・豊かな老後を

- **積立方式**だから自分がかけた金額は年金として**一生涯もらえます**。
- 保険料は**いつでも変更可能!** (月々2万円から6万7千円まで)
- 支払った保険料は**全額社会保険料控除**となり、所得税や住民税等の**節税**になります。
- **政策支援** (保険料の国庫補助) が受けられます。



(例) 認定農業者等の青色申告者で、35歳未満の方は10,000円(5割)補助

農業者年金の加入は簡単です。お近くの農業委員または農協にお問合せください。

農業者年金制度が改正されます

平成14年1月から始まった新たな年金事業(新制度)のみが対象です。

令和4年
1月から

若い農業者が加入しやすいよう保険料が引き下げられます。
(35歳未満の方は、月額1万円から加入できます。)

令和4年
4月から

農業者年金の受給開始時期の選択肢が広がります。
(年金の受給開始時期を、ご自身で選択できます。)
※農業者老齢年金 65歳以上75歳未満
※特例付加年金 65歳以上(年齢上限なし)

令和4年
5月から

農業者年金の加入年齢が引き上げられます。(60歳以上65歳未満の方も加入できます。)ただし、60歳以降に加入できる方は、国民年金の任意加入者に限られます。

※任意加入者(60歳までに老齢基礎年金の受給資格を満たしていない、または40年の納付済期間がないため満額受給できない場合で年金額の増額を希望するときは、60歳以降でも国民年金に任意加入できる制度)

詳しくは、お近くの農業委員または農協にお問合せください。

新規参入者の声

栗沢町上幌 中嶋 一磨さん (新規参入 平成29年11月)



中嶋 一磨さん
妻 さやかさん
長男 碧樹(みつき)ちゃん

「新規参入を目指したきっかけ」

幼い時に祖父の家庭菜園を手伝い、農作物を育てた楽しい思い出が残っています。その思いを持ち続け、東京で就職していた時や、岩見沢に戻ってきた時にも、いつか農業をやりたいと思っていました。帰岩後、新規就農者向けの説明会を聞くなど、就農に向けて検討をした結果、夢をかなえようと判断し、新規参入をいたしました。

「農業に対する思いについて」

最初は、就農地や住宅がなかなか決まらず、資材面・金銭面でも苦労しましたが、就農後は自分の采配一つで挑戦できることや、手がけた分だけ必ず「実」となり帰ってくるところにやりがいを感じます。

「経営概要」

- ・経営面積 (0.76ha (借入地)) ・労働力 (本人、妻)
- ・主な栽培品目 (ミニトマト、にんにく)

「今後の目標」

経営規模の拡大や、6次化 (加工・販売等) にも取り組んでいきたいです。

北海道農業経営相談所について

北海道では、北海道農業公社が、農業経営者の皆さまが抱えている様々な課題に対応するため、農業経営相談所を開設しています。

地域の市町村やJAなどとともに農業経営の法人化や多角化、経営継承、規模拡大などの経営課題に取り組む皆さんに対し、関係機関や専門家連携して支援を行います。

農業経営者の皆さまが抱える課題に応じて最適な専門家が無料で派遣されますので、ぜひ積極的に、ご活用されるようご検討ください。

北海道農業経営相談所
事務局 (公財)北海道農業公社 農業経営相談室

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目 1-23

電話 011-522-5579 ファクス 011-271-3776 <http://www.adhokkaido.or.jp/>

無料で専門家による
個別指導が受けられます

農地パトロール



草刈り等の管理がされていない農地や山林原野化した農地を重点的に、各地区ごとに班編成し、農地パトロール (利用状況調査) を毎年実施しています。

調査の結果、遊休農地又は遊休化の恐れがある農地と判断した場合は、農地の利用について、所有者の方等に意向を確認し、解消に向けた利用の調整を行います。農地の利用についてお困りのことや、わからないことがありましたら、地域の農業委員又は農業委員会事務局へご相談ください。



各申請書の提出期限について

1月5日(水) ※1月総会開催日 1月28日(金)
 2月4日(金) ※2月総会開催日 2月25日(金)
 3月4日(金) ※3月総会開催日 3月30日(火)

各申請書は、法第3条、4条、5条、18条及び農地利用集積計画等を言います。
 積雪期間は、現況調査ができないことから、現況証明願の受付は行いません。
 4月以降も大雪で雪解けになっていない場合も、受付を延長する場合があります。

農業委員会では法人の要件を確認します

農業委員会は法人からの報告に基づき、総会の場で法人の要件を確認します。

未報告の場合は、法人の要件が適正であるかを確認することができないため農地のあっせん等の対象になりません。

報告書様式を別途お送りしますので、決算が終わりましたら、速やかに必ず農業委員会に報告してください。

農業従事者調査票提出のお願い

今年度も町内会長・農事組合長を通じ、農業従事者調査をお願いいたします。
 取りまとめのうへ、1月14日(金)までに提出してください。

令和2年度 農業従事者調査結果

地区	区分	年度	個人		法人		合計	
			戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数
岩見沢	元		322	828	51	177	373	1,005
	2		304	782	53	178	357	960
北村	元		206	552	56	205	262	757
	2		194	508	62	225	256	733
栗沢	元		228	589	10	44	238	633
	2		218	559	13	58	231	617
計	元		756	1,969	117	426	873	2,395
	2		716	1,849	128	461	844	2,310

農地流動化状況

(令和2年11月から令和3年10月審議分)

単位：㎡

農地法第3条				農用地利用集積計画				農地法第4条		農地法第5条	
所有権		使用収益権		所有権		使用収益権		農地法第4条		農地法第5条	
件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
27	212,001	47	4,583,427	153	6,354,724	101	3,232,403	5	3,629	8	24,119

岩見沢市農業委員会



いわみざわ農業委員会だより
 発行概要 ▷ 創刊2007年1月
 ▷ 発行形態＝A 4判カラー
 (一部白黒)、4～8頁建て、
 年1回発行 ▷ 編集体制＝編
 集委員、事務局で構成

わがまちの
農業委員会だより
 &
 地域の話 (22)

2007年1月から岩見沢市農業委員会(山谷康雄会長)が発行している「いわみざわ農業委員会だより」。農業委員会活動の様子や農作業風景の写真が、同だよりの表紙を毎号飾っている。紙面では、農地パトロール

農年受給者の声載せ重要性訴える

特徴的なのは農業者年金のページ。19年からは制度だけではなく、年金受給者を名前と顔写真付きで紹介。「加入して良かった」「若い時から加入してほしい」という受給者の声を載せることにより、老後のための年金の重要性を訴えている。

同委員会の委員は36人で、7人が編集委員を務めている。編集委員と事務局職員で年に数回会議を開いて内容を協議。取材や執筆、レイアウトについて委員が積極的に関わり、見やすく、読みやすく、分かりやすい紙面への心がけがてい。

全国農業新聞 2021年4月16日発行 北海道版

全国農業新聞に、いわみざわ農業委員会だよりが紹介されました。記事にご協力いただいた方や読者の皆様に厚くお礼申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。
 「農業委員会だより」第17号をお届けいたします。
 今号は、全国農業新聞に掲載された内容を載せております。また、たくさんの皆様に見ていただけるよう、尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

編集委員長 倉田真二
 編集委員 近田昌枝
 長井孝之
 高田勝彦
 渡辺亮二
 小倉和敏
 坂口信幸

事務局職員の異動について

令和3年4月1日付けで事務局の人事異動がありましたので、お知らせいたします。

旧

事務局長 原政裕
 農地係長 池田大輔
 振興係主任 山本里美
 振興係 桑名翔平

新

事務局長 土井盛慈
 農地係長 小野洋志
 振興係主任 船戸崇之
 振興係 小林航
 土地改良推進事務所担当主査 池田大輔